

令和3年度 第4回 授業研究の記録 国語科分科会

研究主題

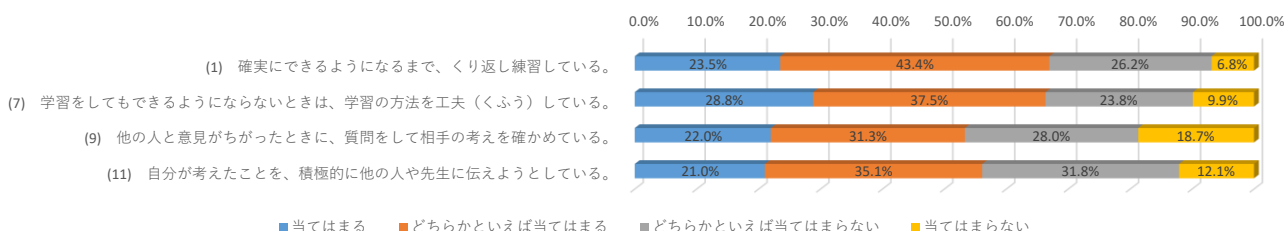
学びに向かう力を育むための指導の在り方を考える

～「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析を通して～

分科会提案

現在の児童の姿 「児童・生徒の学力向上を図る調査」の分析より  
 以下の4点について、本単元で重点的に改善を行う。

4 学習の進め方について、一番近いものを選んでください。



分からないことに対し、何らかの手だてを講じて克服しようとし  
ない。

児童の関心事から「興味を中心」としていくつかのテーマを設定し児童に選ばせる。内容の読み取りの際にどのテーマに関連する内容か逐一考えさせる。  
4 - (1) (7) の改善



異なる考えや意見を参考にして自分の考えを見直したり再構築したりしようとし  
ない。

「興味を中心」ごとにグループを作成し、そこで「考えを紹介する。」「それぞれの考えから、共通している内容を見付ける。」「異なる考えについて意見を言ったり、よさを考えたりする。」などの活動を行う。  
4 - (9) の改善



考えを交流し、自身の考えを広げたり深めたりすることに価値を感じていない。

「興味を中心」の核となる情報を共有し、自他の感じ方や考え方の違いを捉えた後で、改めて、児童が自身の「興味を中心」に基づいて教材文を要約して紹介する。  
4 - (11) の改善



目指す児童像

課題を正しく捉え、適切に解決することができる。

友達と考えを伝え合い、共通点や相違点を考えることができる。

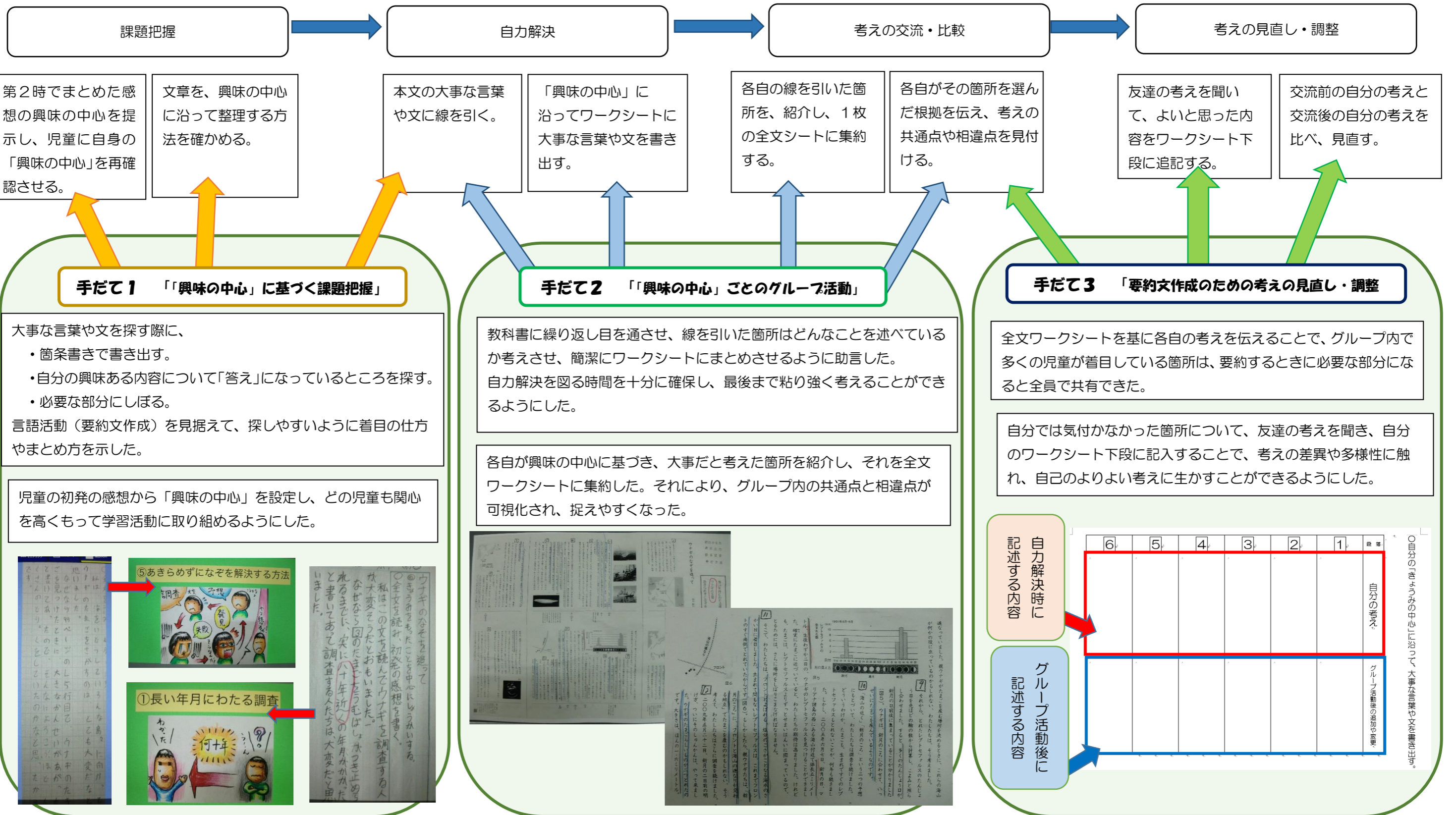
友達の考えを基に、自分の考えを見直し、よりよい考えを構築することができる。

1 単元名 きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう 教材名 「ウナギのなぞを追って」 (国語・四下 光村図書)



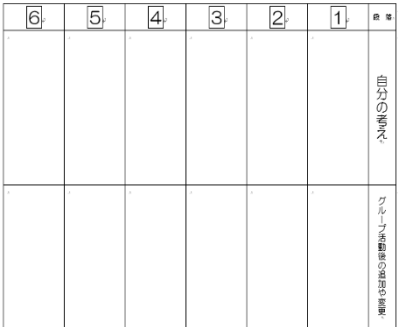
2 単元の目標

- (1) 様子や行動を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1)オ
- (2) 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。〔思考力・判断力・表現力等〕C(1)ウ
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。〔思考力・判断力・表現力等〕C(1)オ
- (4) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。〔思考力・判断力・表現力等〕C(1)カ
- (5) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 本時の流れ



## 児童に見られた様子

手だて1	手だて2	手だて3
<p>「<b>興味を中心</b>」に基づく課題把握</p>	<p>「<b>興味を中心</b>」ごとのグループ活動</p>	<p>「<b>要約文作成のための考えの見直し・調整</b>」</p>
<p>各自、自分の「興味を中心」を常に意識して、それに合った箇所を本文から適切に探そうとしていた。</p> <p>要約文という言語活動を念頭に置き、本文の線を引いた箇所からさらにその内容を簡潔にまとめてワークシートに記述する姿が見られた。</p> 	<p>自力解決の時間を十分に確保したことで、グループ活動でも自分の考えをもった状態で臨むことができ、各自の考えをしっかりと伝え合うことができた。</p> <p>全文ワークシートに各自が大事だと考えた箇所を集約することで、共通点と相違点が可視化でき、友達の考えが捉えやすくなった。</p> 	<p>ワークシートを上下2段に分け、上段に「自分の考え」、下段に「友達の考え」と分けて記入することで、考えの差異や多様性を意識しやすくなり、自分の考えを広げたり深めたりすることに役立った。</p> 

## 成果

- 友達の考えを聞いて、比較することに重点を置くことで、友達と線を引いて見比べる。グループで話し合いながら考えることができた。
- 「興味を中心」ごとのグループにすることで、友達の意見を聞きながら、自分の考えを考え直したり、再確認したりすることができた。
- 授業で学んだことを、教室に常時掲示していくことで、振り返りながら授業を進めることができた。
- 全文ワークシートがあることで、内容を全て一覽で確認できるため、児童は活動しやすかった。



## 課題

- 「話し合いのゴール」を明確化して必要があった。教科書に線を引く目的を繰り返し確認しないと、子どもたちは目的が曖昧になり、余計に箇所にも線を引いてしまっていた。
- 話し合いの「よさの基準」を設定しおくとよかった。どんなことが話し合えていけばよいのかを明確にすることで、子どもたちは学習の課題を正しく捉え、言語活動の達成に向けて、正しく見通しをもって学習することができる。
- ICT 機器（オクリンク等）を活用しながら振り返りをする、教師が毎時の授業の振り返りの視点を明確にしていく等、学習の振り返りの方法に改善の必要があった。